

数学科（数学Ⅰ）学習指導案							
年月日	平成 28 年 6 月 17 日（金）第 1 時限						
年次	1 年次	講座	104	教室	104HR	指導者	万代 道也
単元	第1章 数と式 第2節 1次不等式			教科書	最新 数学Ⅰ（数研出版）		
指導目標	1	式を多面的に見させて、目的に応じて式を適切に変形させる。		指導計画	1	不等式の性質・・・・・・・・・・ 3時間	
	2	不等式の解の意味や、不等式の性質について理解させる。			2	1次不等式の解き方・・・・・・・・ 4時間	
	3	1次不等式の解を求め、1次不等式を事象の考察に活用させる。			3	連立不等式・・・・・・・・・・ 2時間 (本時はその1)	
					4	不等式の応用・・・・・・・・・・ 2時間	
					5	練習問題・・・・・・・・・・ 1時間	
本時の経過	主題	連立不等式					
	目標	1 2つの1次不等式の解に共通する範囲が、連立不等式の解になることを理解させる。 2 連立不等式の解を、数直線を用いて求めさせる。					
	課題	1次不等式の解き方を復習し、プリントの1次不等式の問題を解いておく。					
		学 習 活 動	時間	指導上の留意事項		資料、評価規準等	
指導	過 程	入 展 開 整 理	前時の復習をし、1次不等式の解き方を理解しているか確認する。	10	・前時の授業を振り返り、不等式の性質を用いることで1次不等式が解けることを確認させる。		【評価規準】 ○不等式の性質を理解し、1次不等式を解くことができる。 <知識・理解> 【評価方法】 ○板書や発表内容
			1 連立不等式の解の求め方を説明する。	5	・共通範囲がある場合の解の求め方を確認させる。		【評価規準】 ○1次不等式の解き方を考察する過程で、不等式の性質を考察することができる。 <数学的な技能>
			2 例題20を確認し、練習問題を解く。	15	・机間指導を行い、数直線を適切に利用させる。		○連立不等式の解を数直線上に表現することができる。 <表現・処理>
			3 共通範囲がない場合の解の求め方を確認し、練習問題を解く。	10	・等号がある場合とない場合の違いに気付かせる。		【評価方法】 ○演習観察
備考	1 本時のまとめを行う。		10	・本時の学習内容について確認させる。			
	2 次時の内容を確認する。			・次時の課題を確認させる。			
備考	生徒数 男子23名・女子10名 計33名						